
微妙な距離のふたりに5題

未五月 悠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

微妙な距離のふたりに5題

【Nコード】

N3534F

【作者名】

未五月 悠

【あらすじ】

幼なじみの女の子と男の子の話。告白を手伝ってと頼まれた。その片思い相手は幼なじみの男の子。

1・隣同士がいちばん自然

「ねえ直って羽生君と幼なじみだよな？ てことはちょっとぐらい呼び出しとかしてみても大丈夫だよな？ だったらちょっとお願いがあるんだけど、あたしの友達が羽生君好きなのわけよ。協力してくんない？ いいよね？ 大丈夫だよな？」

言うだけ言って、加奈子はさっさと図書館から出て行ってしまった。

おい、私の話も聞けよ。誰もいいだなんて言っていないだろうが。……とか、言いたくても、もういないし。私はひとつ溜め息をついた。

加奈子が悪い子じゃないのは知ってる。人懐っこいし、軽く人見知り気味な私にも気軽に話しかけてくれる。

でもそれって、逆に言くと人のこと気にしない自己中だよな。そういう人って、正直あんまり得手じゃない。

軽く頭を振って思考を停止させる。

今考えるべきは加奈子のこと、じゃなくて。

私は彼女が来る直前までやっていた、本の整理を再開した。

夕暮れの道をとてとて歩く。

電車の中までは友達と一緒にでも、降りたらもう1人。

ぶる、ポケットの中で携帯が鳴る。

あ、学校出たのにまだマナーモードにしっぱなしだったんだ。

出してメールを見る。……加奈子だ。

はいはい何ですかまた恋愛話ですか。あなたは恋のキューピッド
気取りか何かですか。

そこまで考えることができて、実際本人に言えない私はチキン
だ。

『明日放課後にカモメ公園に呼び出してちょうだい』

おいおいおい、私の意向は完全無視ですかい。せめて語尾にはや
じるしじゃなくクエスチョンマークぐらいつけてくれ。つか私が
協力することは決定事項ですか。

明日までに会わなかったらどうするつもりだ。

「あれ、直？ 帰り時間被るとかめずらな」

後ろからの脳天気な声に、また溜め息ひとつついて私は立ち止ま
る。

「……そうだね、晶」

学ランの、どこかひよろつとした影。件の羽生晶が、私の隣に並
ぶ。

隣にいると高く感じるけれど、男子の中にいると晶はあんまり大
きくない。ホームで一番背が高い女子と比べるとどっこいどっこい
だし。

「早いね、どしたの？」

「今日はうるせー女がいなかったからさあ」
「煩い女？」

一瞬加奈子のが頭に浮かんだ。
その“友達”とくっつけようと加奈子が頑張ったら……煩いだろ
うなあ。間違いない。

夕日がゆっくり角度を変えてくる。私は少し目を眇める。

「地味な奴なんだけど、ピアノ弾け弾けて煩くて。俺はオルゴールでもCDでもねーっつーの」

ああ、もしかしてその子有加奈子の“友達”かな。
さすがは加奈子の友達、類友か。

「ねえ、どんな子？」

晶は少しだけ上を見る。その顔を私が見上げる。
いつの間にか、身長、差が開いてる。小6……ううん、中2まで
は私のほうが高かったのに。
なんかちよつとム力ついて、髪の毛引っ張ってみた。

「えい」

「痛っ！　なんだよいきなり！？」

「気にしないでいいよ。どんな子？」

「気にすんなって……」

晶はちよつと眉を歪めるも、話を続ける。

「とにかく俺に弾かせたがるんだよ。俺別にクラシックなんて好き
じゃねーのに」

「弾かなきゃいいじゃない」

「ぎゃあぎゃあうるせーのに？」

「……それは弾くね」

むしろ引くね。晶はクラシックよりポップスのほうが好きだし。ポルノうまいんだよね。中学の時、晶の家に行って弾いてもらったつけ。私歌うの好きだから合わせて歌ったりして。

「ねえ、弾いてよピアノ」

「は？ どこで？」

「晶んち。行こ」

数歩、とんと先に出る。とたんすぐに晶が並ぶ。奴め、大股で歩きやがった。

ステップ踏むように前に出る。また並ばれる。ムキになって前歩いて、すぐ晶も並んで。

「なんでだよ」

「私も聞きたくなつたの。悪い？」

「悪いとは言つてねえけど」

「ならいいよね？」

隣に晶。足を緩めてもそれは変わらない。

うん、やっぱりこれが、一番自然。

「ポルノ弾いてよ、ポケット。メリッサ歌いたい」

きーみのつてつで、と出だしを歌う。晶が苦笑する。だってほら、中学んとき一番歌つたの、これだし。

「いいけど大声出すな」
「わかってるってば」

隣に、晶。

隣同士が一番自然。

END .

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3534f/>

微妙な距離のふたりに5題

2011年1月16日00時59分発行